



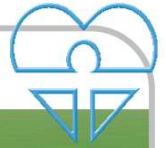
慢性腎臓病(CKD)患者の 家庭血圧測定率向上を目指して

○松尾晴美¹⁾，福富愛¹⁾，永易由香¹⁾
坂田良子¹⁾，宮園和也¹⁾，沖永鉄治¹⁾
松見勉²⁾，平林晃¹⁾，高杉敬久²⁾
頼岡徳在^{1),3)}

医療法人社団 スマイル 広島ベイクリニック¹⁾

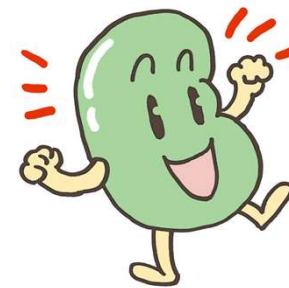
医療法人社団 スマイル 博愛クリニック²⁾

一般社団法人 広島腎臓機構³⁾



はじめに

- ❖ 慢性腎臓病（CKD）における降圧の意義は「CKDの進行を抑制し、末期腎不全への進展を防止ないし遅延させること」（CKD診療ガイド 2013）
- ❖ すべての患者が家庭血圧を習慣的に測定しているとは限らない。
- ❖ CKDから療法選択、維持透析まで関わる看護師として、CKD進行抑制の援助のひとつとして、家庭血圧に注目した。





目的

- ❖ CKD患者が家庭血圧の意義と測定方法を知り、測定率を向上させる。





期間と方法

- ❖ 調査期間：**2013年6月～9月**
197名 男性 **82名(42%)** 女性 **115名(58%)**
- ❖ **1回目**は血圧測定状況などのアンケート後、血圧測定の意義と方法について説明を行った。
- ❖ **2回目**のアンケートでは、その後の測定状況とともに内服薬の飲み忘れについて調査した。





対象者の背景

- ❖ 慢性糸球体腎炎 **102名**
- ❖ 糖尿病性腎症 **8名**
- ❖ 腎硬化症 **18名**
- ❖ 多発性嚢胞腎 **1名**
- ❖ その他（膠原病、リウマチ） **68名**



CKD G1	1名
CKD G2	32名
CKD G3a	26名
CKD G3b	8名
CKD G4	14名
CKD G5	4名

測定群

CKD G1	17名
CKD G2	54名
CKD G3a	19名
CKD G3b	10名
CKD G4	9名
CKD G5	3名

非測定群

合計	18名
	86名
	45名
	18名
	23名
	7名





家庭血圧測定状況

❖ 測定している	85名	(43%)
❖ 毎日測定している	34名	(17%)
❖ 1週間に1回以上	36名	(18%)
❖ 1週間に1回	14名	(7%)
❖ 月に1回	1名	(0.05%)

- ・「出来るだけ透析導入を遅らせたい」
- ・降圧剤を飲むようになってからは測っている





測定していない理由

❖ 測定していない **112名 (55%)**

理由

❖ 自宅に血圧計がない **68名 (34%)**

❖ 忙しい **6名 (3%)**

❖ 面倒 **12名 (6%)**

❖ 病院で測るのでよい **22名 (11%)**

❖ 必要性がわからない、あまり気にしていない **4名 (2%)**



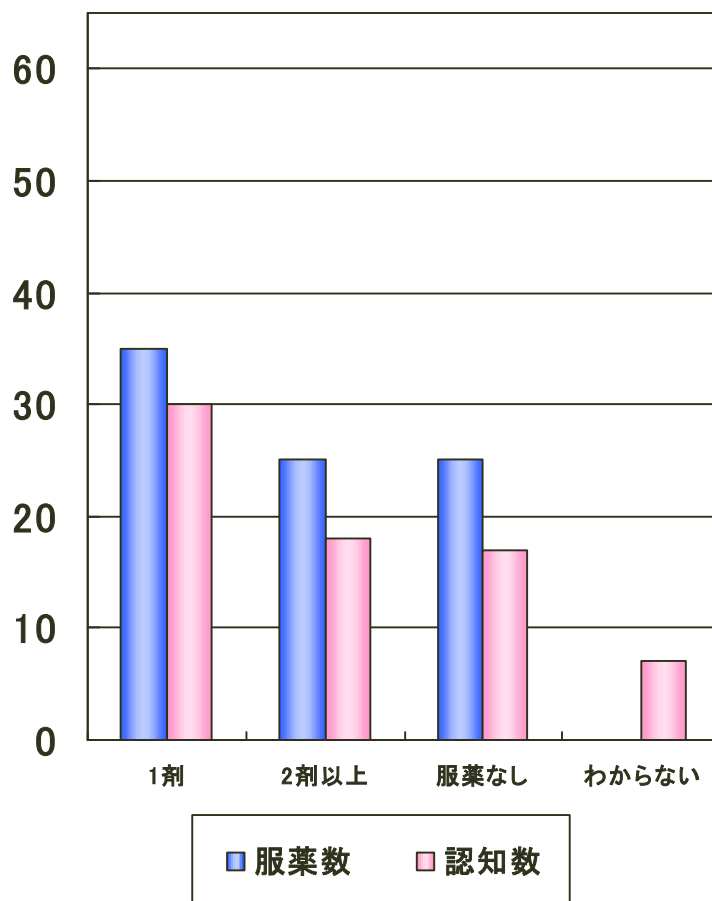


降圧薬認知状況

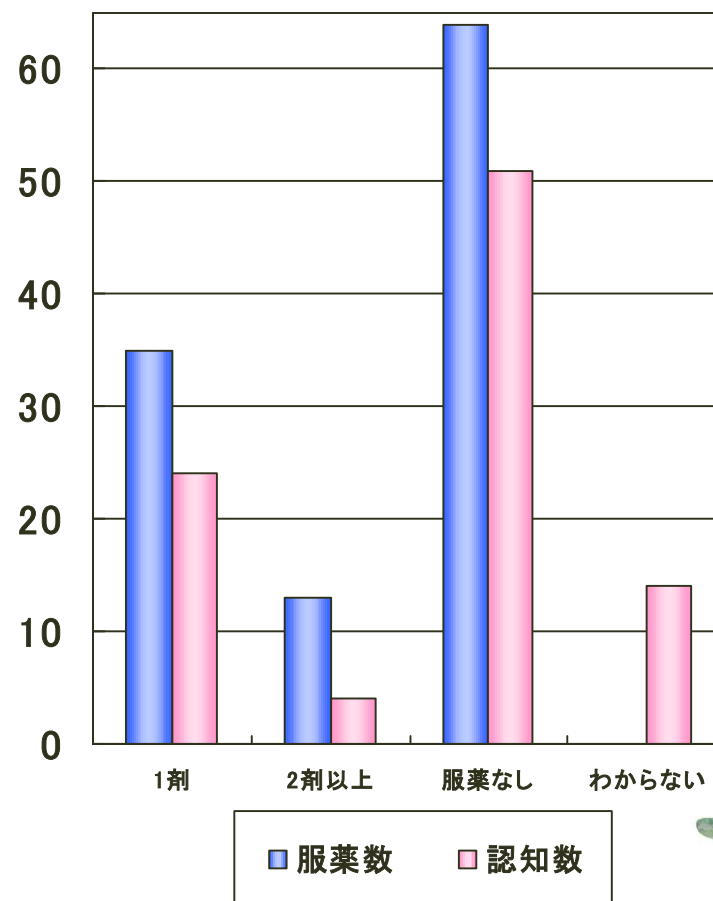
降圧薬の服用が無い場合
測定していない人が多い



習慣的に測定している群(85名)



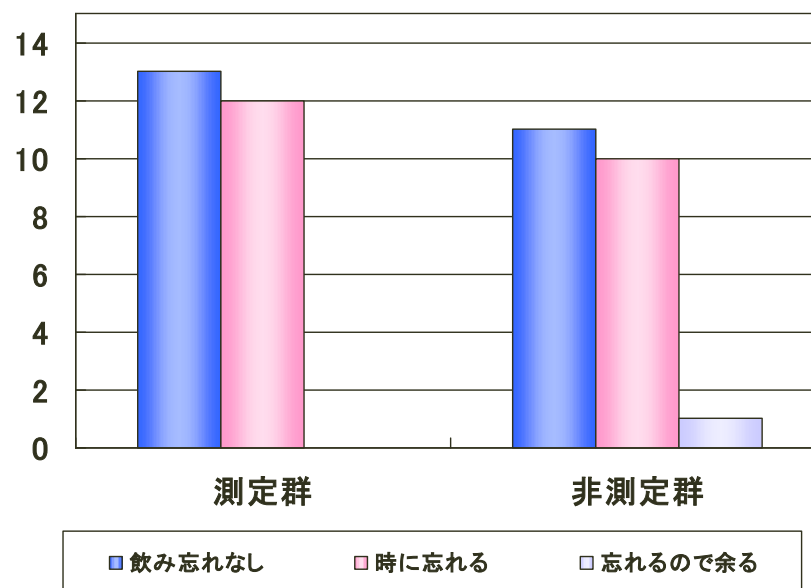
習慣的に測定していない群(112名)





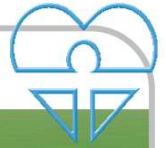
薬剤の飲み忘れについて

❖ 2回目のアンケートが実施できた48名に確認



2回目のアンケート実施者のうち、新たに血圧測定が実施できた患者は1名のみ。





考察

- ❖ 患者自身が健康問題を認識し、積極的に治療に参加していくことで、自己管理能力は向上する。
- ❖ 家庭血圧を習慣化するためにはさらにアプローチが必要である。
- ❖ CKDの危険因子のなかで血圧は対処可能なものであることを理解してもらうことが大切。





まとめ

☆家庭血圧測定の意義と測定方法を伝えるだけでは測定率の向上にはつながらなかった。

☆**CKD**患者の血圧に対する意識と現状について把握することができた。

☆今後、自覚症状の少ない患者が血圧を意識する為の援助が必要である。

例えば、原疾患が血圧に与える影響や自分が飲んでいる薬剤の意味を理解することからはじめる。

